平成二十二　中入　国語　［前期］　（その一）　金蘭千里中学校

解答はすべて（その八）の解答用紙に書きなさい。

①大阪にある（注1）通称「骸骨ビル」で、パパちゃんこと阿部轍正は、友人茂木泰造の助けを借りて二十九人の（注2）戦災孤児の面倒をみることになった。以下の文章は、孤児の一人であったナナちゃんの思い出話である。文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

いま思うと、昭和三十年っていうのは、パパちゃんも茂木のおじちゃんも、とても苦しかったころなのよ。

戦後の飢えた時代と比べたら、世の中は多少立ち直りつつあったけど、まだまだ貧しさはつづいていた。骸骨ビルの二階と三階の各部屋は貸事務所として埋まってたけど、その家賃収入だけでは、三十人近くもの子供たちを養えない。畑に改良した庭で作る野菜も、たかがしれた収穫高で、子供たちのお腹を満たすことなんて到底できやしない。

（中略）

またそういう時期にね、ヨネスケとか菊田の幸ちゃんとか木下のマコちゃんとかトシ坊、チャッピーたちが、町で悪さをする年齢に達してたのよ。

近所の子たちとケンカをする。本屋さんで集団で漫画本の立ち読みをする。プロレスの中継を観るために、商店街の電器店の店先で朝から席取りをする。淀川べりをねぐらにしている浮浪者たちにいたずらをする。

どれもこれもA他愛のないものなんだけど、Bうさん臭い目で骸骨ビルを見てる人たちは、それに尾ひれ背びれを付けて騒ぎ立てて、いちいち**ア**コウバンに相談に行くのよ。

①経済的なことが最大の難題だったけど、それ以外でも、パパちゃんも茂木のおじちゃんも（　②　）っていう状態に陥ってたのね。

私たちはそんなことは知らないから、まったく能天気なもんよ。

X外で何かいやなことがあっても、骸骨ビルっていうX巣に戻れば、優しいパパちゃんと茂木のおじちゃんがいて、根気よく話を聞いてくれる。

……③とにかく、パパちゃんと茂木のおじちゃんは「聞き上手」だった。自分たちはこう思う、だからこうしたほうがいいんじゃないか、って言う前に、子供たちの言葉をまず聞いてくれるの。

子供に限らず、人間てみんなそうなんだって思うんだけど、こっちに喋りたいことや言い分があるときは、相手の言葉って心に入ってこないのよ。

「それで？　うん、それから？　そうか、まだ言ってないことがあるんじゃないか？」

って訊かれて、そうだ、まだあった、あれもこれも言わなきゃって喋ってるうちに、なんだか、空っぽになっちゃうのよ。そうなってから、

「ぼくはこうしたほうがいいと思う。お前の言い分は正しいようだけど、大事なところが少し間違ってる。何事も相手の身になって考えてみるっていうことが大事だ」

って言われると、ああ、そうなのかなアって納得しちゃうのよ。

パパちゃんと茂木のおじちゃんは、いつもそういうふうに接してくれたわ。

私たち、おとなになってから、まだ当時三十代だった阿部轍正さんと茂木泰造さんていう前途ある青年が、なぜ血のつながりのないたくさんの孤児たちのために一生をついやそうと決めたのか、その根本の**イ**ドウキは何なのかを知りたいと思ったわ。

折りに触れて、④みんなそれぞれの訊き方で同じ質問をしたみたいだけど、阿部のパパちゃんは、

「みんなが可愛かったからや」

としか答えなかったの。茂木のおじちゃんはいまでも、

「さあ、なんでやろなア。⑤とにかくお前らが、これでもかっちゅうくらい、次から次へと悩みを作り出してくれるから、このビルからもお前らからも逃げだす暇がなかったんや」

って笑うだけよ。

……私、さっき、畑仕事は嫌いだったって言ったけど、あれはミミズ採りと堆肥作りが嫌いだっただ

★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

けで、野菜を作るのは好きだったのよ。というより、畑のここからここまでは自分の担当だって決められて、みんなもそれに従って水をやったり雑草を抜いたりしてるから、仕方なく自分もやってるうちに、だんだん好きになっていったって言ったほうが正しいわね。

私が畑仕事で知ったことは、どんなものでも手間暇をかけていないものはたちまちメッキが剥げるってことと、一日は二十四時間がたたないと一日にならないってことよ。その一日が十回重なって十日になり、十日が十回重なって百日になる。これだけは、どんなことをしても早めることができない。

「ジャックと豆の木」って童話があるけど、一粒の豆を植えて水をやると、たちまち芽が出て、それが見る間に伸びていって、たった一晩で天まで届くほどに育って、なんていうのは、あくまでもファンタジーの世界よ。

人は Y ファンタジーのなかで心を休めたり遊んだりしたいもんだけど、それはつかのまの酒の酔いみたいなもんよ。つかのまだから酔ってられるの。一生酔ってなんかいられないわ。そんなことしたら死んじゃう。私たちの生きてる現実の世界ってC容赦のないものなのよ。

畑仕事って、人を残酷なくらいに現実ってものに直面させてくれるわ。

★【土を耕してたねや苗を植える。**ウ** ヒンシュ によって発芽するまでの日数が違う。何日か何週間かたって、無事に芽が出る。霜や氷から守らなきゃいけないひんしゅもあれば、逆に厳しい条件下のままにしとかなきゃいけないものもある。太陽の光が当たり過ぎたら育たないものもある。そうじゃないものもある。その太陽の光だって、充分に当てなきゃいけない時期とそうでない時期とがある。】

でも、太陽は人間が望むようには照ったり曇ったりしてくれない。

雨も風も、みんなそうよ。だから、人間が足らずを補い、多すぎるものを減らしてやらなきゃいけない。

茎や幹や葉には、いろんな虫がつく。その植物にとって有益な虫もいるし、害虫もいる。虫がついたからって何もかも駆除しちゃいけない。

雑草も同じよ。たった一本きりの細い雑草だからって **エ** ユダン してたら、その根が地中ではびこって **オ** ヨウブン を奪ってしまうこともあるの。

一本の茄子の苗を植えて、それが⑥みずみずしいよく肥えた立派な茄子の実をつけるまでには、多すぎる葉を落としてやったり、伸びつづけている茎に添え木をして、若い茄子が自分の重さで **カ** タれて、土の上で腐らないようにしてやらなきゃいけない。

それって、毎日毎日、その茄子を見てるからわかるの。

そうやって⑦丹誠込めても、三か月なら三か月、半年なら半年っていう（　⑧　）だけはどうすることもできないわ。やるだけのことをやり尽くして、あとは時を待つしかない。まさに、人事を尽くして天命を待つ、ってやつよ。人事を尽くさずに天命だけ待ってたら⑨朝顔だって枯れちゃうわ。

私たち、そういうことを幼いときから自然に骨身に徹して学んだのよ。⑩幸福な子供たちだったと思うわ。

やっと春が来たときの土の匂い……。土の匂いが、ある日突然変わるのよ。春の匂いに。

土が教えてくれるの。 Z カレンダー が教えてくれるんじゃないのよ。

夏の到来も、秋の到来も、冬のそれも、全部、土が教えてくれるの。色や匂いでね。

だから、骸骨ビルで自分に与えられた畑仕事をやりつづけて育った子たちは、おとなになってからも粘り強いわ。みんな立派な学歴なんてないけど、自分の仕事に手を抜かない。骨身を惜しんだら結果がどうなるか。骸骨ビルの庭で、これでもかって教えられたのよ。

（宮本輝『骸骨ビルの庭』一部改めたところがある）

（注１）通称「骸骨ビル」…昭和六年に英国人の設計家によって建てられた三階建てのビル。屋上に何本もの物干し竿が突き出ていて、それが人間の骨のように見えたからこう呼ばれている。

（注２）戦災孤児…戦争のために両親を失ってしまった子供。

（一）**ア** □～**カ** □ のカタカナを漢字に直しなさい。

ア コウバン　**イ** ドウキ　**ウ** ヒンシュ　**エ** ユダン　**オ** ヨウブン　**カ** タ（れて）

★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

（二）二重傍線部A～Cの本文中の意味としてもっとも適切なものを、それぞれア～オの中から一つ選び記号で答えなさい。

A　他愛のない
　ア　他と区別できない
　イ　他人にめいわくをかけない
　ウ　取るに足りない
　エ　一人前でない
　オ　非常に悪質である

B　うさん臭い
　ア　どことなく疑わしい
　イ　敵意に満ちた
　ウ　大げさに騒ぎ立てる
　エ　何かというと集まりたがる
　オ　いやなものには目をつぶる

C　容赦のない
　ア　許すことのできない
　イ　周りに理解してもらえない
　ウ　用心しなければならない
　エ　手かげんすることがない
　オ　やさしく見守ってくれる

（三）波線部X「外」は、本文ではX「巣」と対応している。波線部Y「ファンタジー」・Z「カレンダー」に対応する言葉をそれぞれ本文から抜き出しなさい。

（四）傍線部①「経済的なことが最大の難題だった」とあるが、それが具体的に書かれている連続する二文を探し、最初の五字を抜き出しなさい。（句読点を含む）

（五）（　②　）に入る言葉としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び記号で答えなさい。
　ア　五里霧中　　イ　公平無私　　ウ　四面楚歌　　エ　一挙両得　　オ　七転八倒

（六）傍線部③「とにかく、パパちゃんと茂木のおじちゃんは「聞き上手」だった」とあるが、この場合の「聞き上手」とはどんな意味か。もっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び記号で答えなさい。
　ア　うまい受け答えをして、自分が聞きたいと思っていることを相手に十分話させること。
　イ　相手に十分話をさせたうえで、的確なアドバイスやいろいろな注意をしてくれること。
　ウ　相手がもうしゃべることがなく空っぽになったと思わせるほど長く話を聞いてくれること。
　エ　相手が小さな子供であっても一人前の人間として扱い、対等の立場で話をしてくれること。
　オ　うまい受け答えをしているように見せかけて、実は自分の意見を押しつけようとすること。

（七）傍線部④「みんなそれぞれの訊き方で同じ質問をしたみたいだけど」とあるが、「同じ質問」とは、どんな内容だったのか。本文からふさわしい部分を探し、最初と最後の五字を抜き出しなさい。（句読点を含む）

（八）傍線部⑤「とにかくお前らが、これでもかっちゅうくらい、次から次へと悩みを作り出してくれるから」とあるが、「次から次へと悩みを作り出し」た様子が、具体的に書かれている段落を本文から探し、最初の五字を抜き出しなさい。（句読点を含む）

（九）★【　　】の段落で書かれていることは、どうすることでわかるのか。次のような形でまとめなさい。ただし、空欄には六字以内の語句を考えて入れること。（句読点を含む）
　＊野菜を（　　）こと。

（十）傍線部⑥「みずみずしいよく肥えた立派な茄子の実をつける」とあるが、そんな茄子を作るには、どんなことが必要なのか。傍線部⑥より前の本文から、ふさわしい箇所を三十字～三十五字で探して、抜き出しなさい。（句読点を含む）

（十一）傍線部⑦「丹誠込めても」とあるが、「丹誠込めて」と同じ意味の表現を、本文より二箇所探して、抜き出しなさい。

★★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その四）　金蘭千里中学校

（十二）（　⑧　）に漢字二字の熟語を入れなさい。

（十三）傍線部⑨「朝顔だって枯れちゃうわ」とあるが、「朝顔」はどんな植物のたとえとしてあげられているのか。わかりやすく説明しなさい。

（十四）傍線部⑩「幸福な子供たちだったと思うわ」とあるが、

1、どうしてそう言えるのか。解答欄に当てはまる形で、本文のふさわしい部分を抜き出しなさい。（字数は句読点を含む）

＊［ア　三字］を通して［イ　三十五字］と［ウ　二十五字］の二つを学ぶことができたから。

2、また、それは、大人になってからどう役立ったのか。解答欄に当てはまる形で、本文のふさわしい部分を抜き出しなさい。（字数は句読点を含む）

＊［エ　十六字］がわかるので、［オ　十二字］、［カ　四字］性格になった。

②次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

大学に入ったころに読んで、①とても印象に残っている本があります。ある高名な経済史家の**ア**［チョショ］なのですが、それには「若いうちに②無駄なことをしなさい」と書いてありました。「無駄なことをしないと、そうでないものもわからない」と。

学校教育はまったくその逆ですよね。学生たちはマニュアルに則して、学校教育的に〝無駄なもの〟と〝無駄でないもの〟をいち早く選別するように訓練されます。無駄なことに、いかにエネルギーと時間を**イ**［ツイやさ］ないかが資本主義の鉄則ですから、選別が**ウ**［コウリツ］的にできる人が優等生となるわけです。

ところがその本には、まったく反対のことが書いてありました。それでとても印象に残っていて、私も大学時代はもっぱら無駄なことに時間をついやしていました。無駄なことといっても、ブラブラと遊んで暇つぶしをするという意味ではありません。

直接的な利益や【　A　】にはつながらないけれど、おもしろそうだからやってみたいとか、どうしても好きだからその世界に飛び込んでみたいとか、そういうやる気があった上での無駄です。たとえば「**エ**［エンゲキ］がどうしても好きだからやってみたい」とか、そういうことです。

私の場合は、それが古典の世界だった。人からみたら、まさに時代遅れの無駄なものです。しかもやたらと時間がかかる。自分でもこんな古い書物ばかり研究していて、大丈夫なのだろうかと自問自答したこともありました。でも、結果として、③それをやっていたからこそ、何が無駄で、何が無駄じゃないのかが次第にわかってきました。それは学校の優等生が損得勘定で判別するものとはまったく違っていると思います。また個人の好き嫌いで決められるものでもありません。

そうではなくて、人間が生きていく中で、共に価値を見出そうとするもの――いわゆる〝公〟とか〝パブリック〟といわれる事柄について、何が大切なのか、ということなのです。そしてそれを目利きして判断をする能力こそが、知性なのだと思うようになりました。

ところが今は④多くの人が、損をしない生き方こそが、賢い生き方だと思っています。

でも、よく考えてみてください。多くの場合、人は得をしようとして損をしています。（注1）ネットバブルにしても、得したいと思って得する人はほんの一握りで、ほとんどの人が損している。

結局、人生は何が幸いして、何が災いするかわかりません。つまり損か得か、と考えることは、じつはあまり意味がないのだと思います。得をしようとして得していれば、私たちの社会は非常に単純ですよ。でも、善人がかならずしも幸せにならないのと同じように、得しようとして得が生まれるわけではないのです。

さらにいえば、損得という価値観で生きても、それがかならずしも幸福につながるわけではないのです。

⑤たとえばゲップが出るほどご馳走を食べて、ドアを開けたとたん、そこで餓死しそうな物乞いがいたとする。そうしたら、どう思うでしょう？「私はこんなにご馳走が食べられて幸福だ。ああならなくてよかった」と思える人は、あまりいないでしょう。たいていの人は、どこかで気まずい思いをするは

★★★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その五）　金蘭千里中学校

ずです。

中には、「私は今日、ゲップが出るほど食べたんだから、明日は我慢して、その一〇分の一くらいは、あの人にあげてもいいんじゃないか」と思う人がいるでしょう。あるいは、「あの人も自分と同じように、ゲップが出るほど食べられたらいいな」と思う人もいるかもしれない。そうした感情の中に〝公〟につながるものが芽ばえているのです。

つまり自分はお金持ちで腹いっぱい食べられて得しているのに、幸せとは思えない場合がある。なぜなら人には【　B　】というものがあるからです。（注２）ルソーはどんな人間にも、ピティエ（【　B　】）があるといっている。人間には損得の哲学だけでは、単純に割り切れないものがあるのです。

そして人間は、そのもうひとつの⑥公の価値に気づいたとき、初めて何が大切で、何が大切じゃないのかについて考えようとする。知性とは、その能力であり、そのことに気づく感受性みたいなものなのだと思います。

最近、私が気になっているのは、実際に世の中で起きている問題を全部心理的な問題に還元してしまう――そんな考え方が蔓延していることです。私はそれを〝ココロ主義〟と呼んでいます。

どういうことかというと、たとえば「どうしたら戦争がなくなるんだろう？」という問題を考えたとき、「みんながやさしくなればいいんだ」と言う人がいますよね。私も子どものころはそんなふうに思いました。「やさしい心を持てば、世界は平和になるんだ」と。自分という内部が変われば世界も変わる。心のスイッチを切り替えれば、世界が違って見えるはずだ、というわけです。

そういったもっともらしい、そしてわかりやすい言葉には、たしかにある種の力があります。何か一時的に非常に気持ちのいい状態になる。幻想を垣間見ることができる。

でも、実際にそれで世界は変わるのかというと、じつは外側の世界は一向に変わらない。「どうしたら戦争がなくなるんだろう？」という問いにしても、現実には、経済的な**オ**カクサ、宗教的な対立など、さまざまな問題が解決されなければ、戦争はなくならないのです。

だから私にいわせれば、⑦それはまるでお酒を飲んで酔っ払っているのと同じなのです。すべての物事をココロの問題にしてしまうことで、現実問題をしばし忘れさせてくれるというわけです。

これはある意味において、じつに〝（注３）オウム的〟です。ヘッドギアをつけて麻原彰晃と交感する。すると自分のステージが上がっていき、悟りに近づくことで世界もよくなっていく。ココロ主義に流される人たちも、そんなオウム信者と同じように、〝心〟や〝魂〟に、内なるサンクチュアリ（聖域）を求めているのでしょう。

⑧しかし、これは知性というものが、もっとも嫌悪するものじゃないでしょうか。知性というのは公の問題を考えることだといいましたが、結局、人間は社会の中で生きているわけで、そこからは切り離せない。

自分という自我の**カ**イシキは、他者の主観性と離れては存在することができないのです。人間という字は〝人の間〟と書きますが、他者との【　C　】こそが、人間そのものだといってもいいと思います。

その中で、自分と世界の関係をどう考えるか。それが知性なのです。世界を変えることでしか人間は変わらないし、人間を変えるためには世界を変えないといけないのです。

ところがココロ主義では、世界をみるときも、自分を同心円の中心として、国家があり、世界がある。それで「我が国は」とか「我が国民は」といういい方が、最近ではよく出てくる。韓国にも「ウリナラ」という言葉があります。これは「（注４）Our country」という意味で、韓国人も無反省的にそういうことをよくいってしまうのですが、自分を中心にしてしか、世界がみられなくなってしまう。

つまりココロ主義の人たちは、とても【　D　】向きなのです。外の世界との関係は断ち切られていて、自分たちの小さな世界の中で通じ合っていればいいんだと。でも、本来、知性というのは外に広がっていくものです。

そのことをもう一度、みなさんに考えてもらいたいと思うし、そのためには酩酊状態じゃなくて、シラフじゃなければなりません。気持ちのいい言葉に流されたり、目先の結果に飛びつくことのないよう、みなさんには

⑨本当の知性を身につけてもらいたいと思っています。

（姜尚中『ニッポン・サバイバル』一部改めたところがある）

（注１）ネットバブル…インターネット関連の多くの会社が急にもうかった後、大きな損をした現象。

（注２）ルソー…フランスの哲学者・作家（一七一二―一七七八）。

（注３）オウム…オウム真理教。麻原彰晃が作った新しい宗教で、おもに平成七年以降、殺人をふくむ

受検番号	

★★★★★

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その十八）　金蘭千里中学校

さまざまな集団的犯罪で世間の注目を集めた。

（注４）Our country…「私たちの国」という意味の英語。

（一）**ア**□～**カ**□のカタカナを漢字に直しなさい。

ア　チョショ　　**イ**　ツイ（やす）　　**ウ**　コウリツ　　**エ**　エンゲキ　　**オ**　カクサ　　**カ**　イシキ

（二）傍線部①「とても印象に残っている本」とあるが、筆者はこの本を読んで、どのような考えを持つようになったと言っているか、その説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ブラブラと遊んでただ暇つぶしをするのではなく、エネルギーや時間を無駄にせず、興味のあることに専念すべきだという考え。

イ　学校では、無駄なものと無駄でないものを、正確に早く区別することの大切さしか教えてくれなかったという考え。

ウ　自分にとって損か得かにとどまらず、世の中に生きているみんなにとって良いこととは何かを考えなければならないという考え。

エ　自分は実は、大学時代には無駄なことしかしておらず、直接的に利益になるようなことは何ひとつしてはいなかったという考え。

オ　役に立つかを気にする他の人からいくら時代遅れと言われても、自分が一番勉強しなければいけないのは古典であるという考え。

（三）傍線部②でいう「無駄なこと」の例としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　長い目で見たら体をこわすのでよした方がよいと家族に言われても、医師になる夢を持ち、その実現に直接つながる勉強ばかりする。

イ　まだ若い、今のうちにしかできないことを必死で探し、一切のエネルギーや時間の無駄を省いて、昔書かれた書物を読んでいく。

ウ　実用的かどうかということにとらわれないで、はっきりとした目標を定めず、特に何もしないまま、日々を過ごしてゆく。

エ　まったく学校教育のいいなりになって、自分の将来に役立つと思えるような教科の勉強だけを一生懸命（いっしょうけんめい）やりつづける。

オ　本やインターネットなどで大変長い時間をかけて下調べをして、世界のいろいろな国を訪ねる貧乏旅行（びんぼうりょこう）をくり返す。

（四）空欄【　Ａ　】、【　Ｄ　】を補うのにもっとも適切な漢字一字をそれぞれ答えなさい。

（五）傍線部③「それ」の内容を、本文中の語句を用いて五字**ちょうど**で答えなさい。（書き抜きでなくてもよい）

（六）傍線部④「多くの人が、損をしない生き方こそが、賢い生き方だと思っています」とあるが、筆者はこのことに対してどのような感想を持っているか、その説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　知的でない考え方で、そのような考え方は現実にあっていないと思っている。

イ　現代的な考え方で、昔にはそのような考え方はなかったと思っている。

ウ　よくない考え方で、このような考え方がかえって損を生むと思っている。

エ　同情できる考え方で、バブルの時代にはよく出てくると思っている。

オ　一般的な考え方で、利益を求めるほうが得になると思っている。

（七）傍線部⑤「たとえば」から始まっている例から、筆者が述べたいことはどういうことか、その説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　豊かな我々は、満足に生活できない人のことを常に考えながら生活しなければならないということ。

イ　人間は、自分だけが得をしても完全に満足できないという性質をもっているものだということ。

受検番号	

★★★★★
★

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その七）　金蘭千里中学校

ウ　損得勘定だけで割り切れないものがあるからこそ、無駄を省いて世の中をよくすべきだということ。
エ　自分よりも貧しい人間に対して、持っているものを分けあたえることが、社会の理想だということ。
オ　自分よりはるかにめぐまれない人に対する同情ができないということ。

（八）本文に二つある空欄【　B　】には、同じ意味の語句が入る。空欄を補うのにもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　かなしみ　　イ　くやしさ　　ウ　あわれみ　　エ　うれい　　オ　ほこり

（九）傍線部⑥「公の価値」の、ここでの意味に関連する四字熟語としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　一石二鳥　　イ　共存共栄　　ウ　天地創造　　エ　八方美人　　オ　奇想天外

（十）傍線部⑦「それはまるでお酒を飲んで酔っ払っているのと同じなのです」とあるが、このように筆者が考える理由を、「心」「戦争」の二語を用いて四十五字以内で説明しなさい。（句読点を含む）

（十一）傍線部⑧「しかし、これは知性というものが、もっとも嫌悪するものじゃないでしょうか」とあるが、このように筆者が考える理由の説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ココロ主義を受け入れる生き方は、流されるばかりになるので、自分の考えかたが持てなくなり、知性に活力がなくなってしまうから。
イ　自分の心の中にサンクチュアリを求める行動は、世の中の問題の解決に直接役立つことはなく、結局自分にとっても損になるから。
ウ　自分のステージを上げようとする考え方は、世の中のほかの人間との競争を生んでしまい、豊かな人と貧しい人の間をさらに広げるから。
エ　自分の心の中の変化だけで、世の中の問題に対応する態度は、ほかの人とのつながりを持とうとしない態度であるといえるから。
オ　自分だけが悟れば世界がよくなるという思い込みは、ひとつの宗教の中でしか通用せず、知的な人に理解してもらえないから。

（十二）空欄【　C　】は、「人間が思っていること、感じていることを伝え合うこと」を表す、「コ」で始まる外来語である。解答欄にカタカナを補って、一語を完成させなさい。

（十三）傍線部⑨「本当の知性」とあるが、これについて説明した次の文＊の空欄を、それぞれの指示に従って、本文のふさわしい部分を抜き出して補いなさい。また、空欄ウの抜き出しは、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。（句読点を含む）

＊筆者にとって知性とは、個人の［ア　漢字二字］にとらわれずに、［イ　漢字二字］全体にとって良いこととは何かを見きわめる能力である。そのため筆者にとって、［ウ　三十字以上三十五字以内］態度は知的とは言えず、むしろ［エ　漢字二字］と［オ　漢字二字］との関係を常に考えることこそが重要なのである。

受検番号	

★★★★★
★★

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その八）　金蘭千里中学校

①

（一）ア　イ　ウ　エ　オ　カ　れて

（二）A　B　C　Y　Z

（三）

（四）

（五）

（六）

（七）～

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

1：ア　イ　ウ　エ　オ

2：カ

②

（一）ア　イ　やす　ウ　エ　オ　カ

（二）

（三）

（四）A　D

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）コ　～

（十二）

（十三）ア　イ　ウ　エ　オ

得点	
受検番号	

★★★★★★★★

平成二十二　中入　国語　［前期］　（その九）　金蘭千里中学校

①　（６０点）

（一）ア交番　イ動機　ウ品種　エ油断　オ養分　カ垂（れて）　①×６
（二）Ａウ　Ｂア　Ｃエ　②×３
（三）Ｙ現実　Ｚ土　③×２
（四）骸骨ビルの　②
（五）ウ　②
（六）イ　④
（七）まだ当時三～は何なのか　②
（八）近所の子た　②
（九）毎日観察する（よく見る）　④
（十）人間が足らずを補い、多すぎるものを減らしてやらなきゃいけない。　④
（十一）・やるだけのことをやり尽くして、
・人事を尽くして　（手間暇をかけて）　②×２
（十二）時間　（日数、年月、月日）　②
（十三）誰にでも簡単に育てられる植物。　④
（十四）１、ア畑仕事　イどんなものでも手間暇をかけていないものはたちまちメッキが剥げるってこと
ウ一日は二十四時間がたたないと一日にならないってこと
２、エ骨身を惜しんだら結果がどうなるか　オ自分の仕事に手を抜かない　カ粘り強い　②×６

②　（６０点）

（一）ア著書　イ費（やす）　ウ効率　エ演劇　オ格差　カ意識　①×６　６点
（二）ウ
（三）オ
（四）Ａ得（金）　Ｄ内　②×２
（五）古典の研究（古典の勉強）　４点
（六）ア　４点
（七）イ　４点
（八）ウ　４点
（九）イ　４点
（十）Ａ心の中を変えても、Ｂ現実問題を忘れられるだけで、Ｃ実際に戦争がなくなることはないから。　８点
【基準】
Ａ　「ココロ主義」的な対応→心の中を変える、心理学的問題に還元する　②
Ｂ　「ココロ主義的対応」と「酔っ払う」ことの重なり→問題を忘れるだけ、気持ちよくなる　④
Ｃ　戦争は終わらない、戦争は解決しない　②
（十一）エ　３点
（十二）コミュニケーション　３点
（十三）ア　損得（利益）　イ　社会（世界）　ウ　実際に世の～してしまう（世界をみる～世界がある）　４点
エ　自分　オ　社会（世界・他者）　２点

※　エ・オ順不同可。　②×５　１０点

平成二十二　中入　国語　［後期］

（その一）　金蘭千里中学校

解答はすべて（その八）の解答用紙に書きなさい。

①　江戸時代、清住町の貧しい下駄職人「留吉」の子として生まれた「おふく」は、十二才の時に料理茶屋「橘屋」で奉公（住みこみで働くこと）を始めた。藪入り（盆と正月に親元へ帰ること）を楽しみに一生懸命働いていたある日、おふくは「橘屋」の前で母「お千佳」の姿を見かける。次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

幻かと思った。昨夜、泣いたりしたものだから、菩薩さまが、光に包んで母の幻を見せてくれたのかと一瞬、本気で思った。箒の柄を握りしめる。粗い縞の着物も色あせた帯も見覚えがあった。

「おっかさん」

駆け寄ろうと箒を放したとき、お千佳はふいに両手を合わせた。拝むように腰を曲げる。それから、くるりと背を向けて、漬物屋と八百屋の間の **a ロジ** に消えた。

おっかさん、待って。

駆け出そうとした足元が霜にすべる。尻を【　i　】打ってしまった。うめき声がもれる。（注１）お多代が飛び出してきた。

「朝っぱらから、なにごとだい」

「おっかさんが……」

「なんだって？」

「おっかさんが、あそこに立っていて……でも、なんか様子が変で……」

お多代は、きついまなざしで、まだ雨戸の閉まっている漬物屋を見つめた後、おふくの頭を軽くたたいた。

「ちょっと待ってな」

「あっ、あたしも……」

「ふざけんじゃないよ。おまえには、やらなきゃならない仕事があるだろう。勝手に店を離れるんじゃない」

言われればその通りだ。白い光の中、お多代が母の後を追うのを見送るしかなかった。

お多代が帰ってくるまで、おふくはいつも以上に身体を動かした。そうすれば痛みが少しうすらぐ。

こんな時刻になんで、おっかさんは……何があったの……まさか、おとっつぁんが……妹のおかよが……寄る辺のない不安はつのり、針となり、ちくちくと心を突いてくる。

お多代が帰ってきたのは、（注２）四半時もしてからだった。

「あの道をまっすぐ、紀伊さまのお屋敷あたりまで追いかけたけど、だれもいやしなかったよ。まったく人騒がせだね。忙しいんだから、さっさと動くんだよ」

そう言われてしまえば、おふくは問い返すこともｘこともできない。暮れを控えて、「橘屋」はＡが回るほど忙しい。自分のことに使える時間などないのだ。

①おふくは腹を決めた。ともかく今は働こう。何かあれば知らせが入る。それを待とう。いつも通りの、いつにも増して、あわただしい一日が過ぎていく。胸にわだかまる不安に目をつむり、おふくは働いた。

「おふく」

お多代に名を呼ばれたのは、夜の（注３）座敷に備えて、皿を拭き終えたときだった。拭き終えたばかりの（注４）呉須の皿を手にとって、お多代はおふくと名を呼んだのだ。

「拭き方が雑だよ」

「え、そうですか」

「そうだよ。まったく、おまえは使い勝手の悪い子だね」

「すいません。拭きなおします」

「いいよ。昨日みたいに割られちゃかなわない。ここはもういいから、使いに行ってきな」

「は？」

「陸奥守さまのお屋敷の裏手に、あけぼの屋って豆腐屋があるの、知ってるかい？」

★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［後期］

（その二）　金蘭千里中学校

松平陸奥守の屋敷は、清住町の近くだ。心臓がどくりと動いた。

「知ってるかいって訊いてるんだ。しゃきっと返事をおし」

「知ってます」

「上等だね。行ってきな」

「あ……はい」

「ちょっと遠いけど、あそこの豆腐は一級品だからね。『橘屋』から来ました。（注５）田楽に使う豆腐をくださいって言えば、向こうは万端、心得てる。楽な使いだよ」

「はい。行ってきます」

「おまえは、［　Y　］だからね。転ぶんじゃないよ。豆腐といっしょに転んだらえらいことだからね」

「②お多代さん……ありがとうございます」

おふくは下駄をひっかけて、「橘屋」を飛び出した。赤い鼻緒の下駄は留吉が作ってくれたものだ。この前の藪入りの日、手渡してくれた。頬がこけ妙に長く見えた留吉の笑い顔が、今さら思い出されて胸が波立つ。

万年橋の上で、父親の下駄はかっかっと乾いた音を立てた。橋をわたり、霊雲院の前を走り抜ける。

「一年中の（注６）ご調法、大小柱ごよみ、つづりごよみ」

暦売りの声が風に乗ってひびく。汗が流れた。③足がもつれ、何度も転びそうになる。その度に、下駄はしっかりと地をくわえこみ、おふくの身体を支えた。

油屋、b**コマモノ**問屋、提灯屋、唐辛子屋の絵文字c**カンバン**……なつかしい風景が広がる。

帰ってきた。そう思った。八百屋と米屋の蔵の間に飛びこむ。裏店の木戸をくぐる。

ああ、帰ってきた。

ロジの奥、共同井戸の前がおふくの家だ。

「まっ、おふくちゃん」

井戸端で、大根を洗っていた女が立ち上がる。（注７）お真だった。

「おばさん、おっかさんは」

④お真の顔から、すっと血の気が引いた。

「えっ、おっかさんて……あんた、知らなかったのかい」

お真は大根をつかんだまま、視線をうろつかせた。白い大根から、太い腕から、ぽたぽたと水が滴る。

「どいて」

お真の大きな身体をおしのけるようにして、戸を開ける。

「……」

空っぽだった。そして暗い。たった一間の（注８）九尺店だ。［　B　］がつまるようなせまい家。それでも、行灯があり、小さな箪笥があった。竈の上で鍋が湯気をたてていた。おかよの赤いべべも干してあり、留吉の煎じ薬の匂いがこもっていた。

今はd**ケバ**立った畳だけだった。何もない。空っぽだ。空っぽ……膝をつきそうになる。e**ショウジ**戸に手をかけて、おふくは【　ii　】立っていた。

「あの、あのね。あたしたちも気が付かなかったんだよ。おとといの、夜のうちに、みんないなくなってね。あの……おふくちゃん、ほんとうに知らなかったのかい」

知らない。何にも知らない。あたしの知らないうちに、みんないなくなった。

お真の手がおふくの手首を握った。水にぬれた冷たい手だった。

「いいかい、よく聞くんだよ。お千佳さんは、あちこちに借金があったんだよ。留吉さんの薬礼さ。だけど、どうにもならなくて……たちの悪いとこに金を借りちまった。だから、もう夜逃げするしかなかったんだよ。だから、わかるね。あんたも、もうここへ来ちゃあいけないよ。わかるよね、おふくちゃん」

「おばさん……」

「今朝も、目つきの悪い（注９）ごろつきが、取り立てに来て大騒動だったんだよ。へっ、取り立てる

★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［後期］　（その二）　金蘭千里中学校

相手がいないんだもの、いくら騒いだって無駄ってもんさ」

お真の手に力がこもる。

「いいね、もう二度とここに来ちゃいけないよ。あんたみたいな娘がいるとわかったら、あいつら、あんたを売り飛ばそうとするに決まってるんだ」

お真は大根を放り出し、両手でおふくの肩をつかんだ。

「お千佳さんはね、あんたのおっかさんは、あんたにだけは苦労をかけたくなかったんだよ。『橘屋』に借金にいくことも、あんたのかせぐ金を当てにすることもしたくなかった……逃げるよりほかにしょうがなかったんだ。わかるだろう。⑤そのくらいのこと、わかんないほど、子どもじゃないだろ」

そこまで言うと、お真は手を離し、ため息をついた。

「なんで、こんなことになっちまうんだろうね。まったく……おふくちゃん、ごめんね。つい、酷いこと言っちまって……ほとぼりが冷めたら、ここに帰っておいで。あたしのとこに帰ってくればいいから、あんた、娘みたいなもんなんだから……そうそう、正のやつも今日、帰ってくるんだよ。帰ってくるっていっても、ほんの一刻ばかり寄るだけなんだけど、この先のコマモノ問屋に親方といっしょに寄るついでに……」

⑥お真の口をぼんやり見ていた。厚いくちびるがぱくぱくと動いている。おふくの気を引き立てようとするのか、お真のくちびるは絶え間なく動き、言葉をつむいでいく。

気がつくと走っていた。走って走って、息がきれて、万年橋の欄干にもたれかかった。

酷い、あんまりだよ、おっかさん。

小名木川が流れる。夕焼けを映してわずかに赤い水面は、もうすぐ闇につつまれる。つがいなのだろうか水鳥が二羽、【　iii　】羽をつくろっている。

おっかさんもおとっつぁんも、酷いよ。藪入りには帰っておいでって、待ってるからねって、そう言ったじゃないか。

（あさのあつこ『待ってる』一部改めたところがある）

（注１）お多代…「橘屋」の女中たちのリーダー。

（注２）四半時…一時（約二時間）の四分の一。約三十分。

（注３）座敷…宴会の席。

（注４）呉須…中国産の食器。

（注５）田楽…豆腐を使った料理の名前。

（注６）ご調法…便利なもの。

（注７）お真…おふくの幼なじみ「正次」の母。

（注８）九尺店…江戸時代の庶民が住んでいたせまい家。

（注９）ごろつき…一定の職業を持たず、あちこちでおどしなどを働く者。

（一）波線部ａ～ｅのカタカナを漢字に改めなさい。

ａ　ロジ　　ｂ　コマモノ　　ｃ　カンバン　　ｄ　ケバ　　ｅ　ショウジ

（二）空欄【ｉ】～【iii】に入る言葉としてもっとも適切なものを次のア～キの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　かろうじて　　イ　あらためて　　ウ　えてして

カ　したたかに　　キ　すみやかに

（三）空欄Ｘ、Ｙには、それぞれ次のような意味の言葉が入る。もっとも適切な言葉をア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

Ｘ…細かいところまで問い求めること。

ア　追跡する　　イ　推敲する　　ウ　該当する　　エ　詮索する

Ｙ…軽はずみなこと。そそっかしいこと。

ア　そこつ　　イ　のんき　　ウ　ずさん　　エ　そそう

★★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［後期］　（その四）　金蘭千里中学校

（四）空欄［A］、［B］にはそれぞれ漢字一字ずつが入るが、次の慣用句のうち、［A］、［B］と異なる漢字が入るものをア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。また、その異なる漢字もそれぞれ答えなさい。

1　［A］が回る

ア　（　）の上のたんこぶ…自分の活動の邪魔になるもの。
イ　（　）をうごめかす…自慢する。得意がる。
ウ　（　）がない…分別を失うほどに好きである。
エ　（　）からうろこが落ちる…急に物事の本質がわかるようになる。

2　［B］がつまる

ア　（　）を巻く…感嘆して言葉も出ない。
イ　（　）が長い…一つのことを長期にわたって続けている。
ウ　（　）をひそめる…気づかれないようにじっとしている。
エ　（　）を抜く…気分転換のために休みをとる。

（五）傍線部①「おふくは腹を決めた」とあるが、何を決めたのか、そのように決めた理由も含めて、五十字程度で説明しなさい。（句読点を含む）

（六）傍線部②「お多代さん……ありがとうございます」とあるが、おふくがこのように言ったのはどうしてか、五十字程度で説明しなさい。（句読点を含む）

（七）傍線部③「足がもつれ、何度も転びそうになる」とあるが、ここでのおふくの気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　生家に帰れるうれしさで胸がはずむような気持ち。
イ　慣れない下駄の歩きにくさをもどかしく思う気持ち。
ウ　家族の安否を一刻も早く知りたいとあせる気持ち。
エ　橘屋の仕事を抜け出すことを申し訳なく思う気持ち。

（八）傍線部④「お真の顔から、すっと血の気が引いた」とあるが、どうしてか。次の空欄（　★　）に入る言葉を、二十字程度で考えて書きなさい。

※（　★　）と気づいたから。

（九）傍線部⑤「そのくらいのこと」とはどういうことか。次の空欄（　x　）～（　z　）に入る言葉を、それぞれ十字程度で本文から抜き出して書きなさい。

※お千佳は（　x　）のだが、おふくにだけは（　y　）ので、何も知らせず家族三人で（　z　）ということ。

（十）傍線部⑥「お真の口をぽんやり見ていた。厚いくちびるがぱくぱくと動いている」とあるが、この場面の説明として、もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　お真は、自分の娘のようなおふくを不憫に思ってなぐさめの言葉をかけ続けるが、おふくは家族に会えなかった今、早く帰らないとお多代に怒られてしまうのではないかと気になり始めている。
イ　「もうここへ来てはいけない」などと言ってしまったのを反省して、お真は優しい言葉をかけ続けるが、おふくは厳しくたしなめられたショックで、何も耳に入らない状態になっている。
ウ　お千佳からのことづてを正確に伝えようとお真は必死に話し続けるが、おふくは自分を置いて夜逃げした家族のことで頭がいっぱいで、何を言われても信じられない状態になっている。
エ　お真は、自分の息子が帰ってくることなどを話しておふくをはげまし続けるが、家族がいなくなったことにショックを受けているおふくに、お真の言葉は意味をなさないものとなっている。

（十一）次の二文は、本文のどこに入るか。直前の五字を答えなさい。（句読点を含む）

【打ち付けた尻の痛みではない。不安の痛みだ。】

★★★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［後期］

（その五）　金蘭千里中学校

（十二）本文の内容を説明した文として、適切なものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　お多代のいやがらせに耐える場面があえて何度も繰り返され、おふくのけなげな働きぶりが際だつように描かれている。

イ　下町の光景が効果的に差しはさまれ、活気あふれる江戸の人々の暮らしぶりが伝わるように描かれている。

ウ　おふくの母親の借金、妹の病気など具体的なエピソードが語られ、江戸時代の身分社会の厳しさが明確に描かれている。

エ　人情味豊かな登場人物たちとの会話がテンポ良く進められ、それに伴うおふくの心の動きも丁寧に描かれている。

オ　現代日本では聞き慣れない言葉がひんぱんに使われ、異国情緒あふれる町の様子が鮮やかに描かれている。

② 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私たちは職場の同僚や友人から相談を持ちかけられたり、配偶者や子供たちからも相談を持ちかけられることがある。これらの相談について考えてみると、そこには二つの異なったタイプの相談があると言えるだろう。

①その一つのタイプでは、相談の内容には、明確な解答が存在している。「この書類はどう書いたらいいのですか」「トイレはどこですか」などといった相談は、このタイプである。このような相談には正確な指示を与えることが最も援助的である。「トイレはどこですか」と聞いている相手に対して、「あなたはトイレを捜しているんですね。それは、あなたにとってどんな実感なんですか」などと問いかけたら、相手にとっては、②それは援助ではなく迷惑そのものとなるだろう。「ドアを出て左！」と言ってあげる方が親切である。指示を求められる場合には、的確な指示を与えることがもっとも援助的である。

しかし、もう一つのタイプの相談には明確な解答はない。「転職を考えている」「この企画、どこか1［しっくり］しない」「あの人とは、なぜか、うまくいかない」などの相談は、その類の相談である。2［往々にして］、人が困っているときや悩んでいるときは、このように、明快な解答がない状況で苦しんでいるのである。

「会社を辞めて、転職しようか悩んでいる」という相談をもちかけられたとしよう。このような相談では、転職をした方がいいのか、しない方がいいのか、聴き手にもわからない。本当はわからないのに、「転職はしない方がいいよ」とアドバイスするのは無責任だし、仮にそう助言したとしても、相談をもちかけた人は納得しないだろう。そこで逆に、「転職はどんどんするべきだよ」と励ましてみるとどうなるだろうか。やはり、話し手は満足しないだろう。「相談し甲斐がない」と思われるだろう。

転職を思い止まるように勧めても、転職するように勧めても、どちらでも満足しないのである。実は、相談とは二者択一的な結論（「イエス・ノー」）を求める行為ではない。それは「話につきあう」行為なのである。そして、話しているうちに、徐々に話し手自身の中から結論が見えてくるものである。よき相談相手とは、「イエス」か「ノー」の結論を出してくれる人ではなく、うまく話につきあってくれる人である、と言えるだろう。

このように、解答が明確でない類の相談では、相手の話を傾聴し、その話につきあっていき、その人自身がその人なりの最善の結論を見いだすのを見守るのが、最も援助的である。

その際、心理学者カール・ロジャーズの言葉を忘れてはならない。ロジャーズは「人生の専門家は、［A］である」と述べたが、相談にあたって、本人自身の考えや可能性を引き出し、本人が納得のいく結論に達することが援助的な相談なのである。

本当のところ、「転職した方がいいのか、わるいのか」「離婚した方がいいのか、わるいのか」などの大問題の解答は、本人以外の者にはわからないのである。一般的なaチシキや他人の例を示すことはできても、その人自身の個別的な状況の認知やその複雑さは、他の人には正確にはわからない。カウンセラーや心理療法家は心理療法の専門家ではあるが、人の人生の専門家ではない。人の「人生の専門家は、［A］」なのである。

それでは、本人の考えを尊重し、本人の可能性を引き出していくような話のつきあい方とはどういう

★★★★★

受検番号	

平成二十二　中入　国語　［後期］

（その十八）　金蘭千里中学校

ものか、「X傾聴」の実際について考えてみよう。

「③南印禅師の講話」というすばらしい禅の講話をイギリスで**bシュッパン**された書物で読んだことがある。傾聴を行うにあたって、思い出してみると役に立つ講話である。

ある仏教哲学の教授が南印禅師のところを訪ねた。仏教哲学についての意見を聞きにきたのである。南印禅師は、「話を始める前に、お茶を飲みましょう」と教授に勧め、お湯が沸くあいだ、南印禅師は沈黙の中で待っていた。

哲学教授も沈黙し、お湯が沸くのを待っていた。しかし、その沈黙の中で教授のアタマはフル回転し始めた。「どの質問から始めようか」「これを聞くと、きっとこう答えるだろう、だから、やっぱりこっちの質問から……」というように、教授のアタマの中は忙しく動いていた。

とうとうお湯が沸いた。南印禅師は湯飲みを二つ用意し、一つを教授の前に置き、もう一つを自分の前に置いた。そして禅師は教授の湯飲みにお茶を注ぎ始めた。禅師はお茶を注いだ。どんどん注いだ。教授の湯飲みがいっぱいになっても、禅師は注ぎ続けた。とうとうお茶は畳のうえに溢れだし、畳が濡れた。それでも禅師は注ぐのを止めなかった。

驚いた教授は「何をしているのですか！」と尋ねた。すると禅師は、次のように答えた。「この湯飲みは、あなたの［B］と同じです。もう、［B］はいっぱいです、だから、私が何を注ごうとも、それはきっと溢れていくでしょう」

これは仏教哲学のすばらしい講話である。しかし同時に、これは傾聴に必要な心理的な3［構え］を**cミゴト**に表現していると言える。「転職をしようか」と悩んでいる人の話を聴くときに、こちらのアタマが「転職はしない方がいい」とか「転職した方がいい」という先入観でいっぱいであれば、おそらく話し手の語る重要な要素が「溢れだして」しまうだろう。こちらのアタマがいっぱいで話が聴けないのである。

そういうときは、湯飲みを空にするといいだろう。

また、聴き手の方にいろいろな心配事や先入観があり、アタマが忙し過ぎて聴けないこともある。目の前にいる人に集中できず、アタマの中では、その人の話よりも別の個人的な心配事や気がかりが押し寄せてくる。そういうときも、まず「聴き手」が自分自身の心を曇らせているものから「間をおき」、湯飲みを空にする必要があるだろう。

そして、「開かれた間」の中に話し手の話を注ぎ込むのである。

このような「開かれた間」は、日常の中では多くは存在しない。相談にいっても、「ある結論に導こう」と誘導するような聞き方や、相手を支配し、思い通りにさせようという聞き方、「教えてやろう」という聞き方、街では商品を何とかして「売ってやろう」とする聞き方など、「間」の中から聴いてくれる人や状況は意外と少ない。

このことは相談に限らず、人間関係全般において言えるだろう。日常生活での人間関係にはいろいろな偏見がある。「あいつは**dケツエキ**型がA型だからきっと……」「女性はどうも……」「最近の若い人は……」などなど驚くほど多くの偏見や先入観の「フィルター」を通してしか、私たちの話は伝わっていかない。

さらに、話を聴いてもらっているうちに、聴き手が自分の経験や考えを話し出してしまい、聴き手と話し手が「［C］」してしまうことさえもある。

まずは、個人的な心配事や気がかりをどこかに置き、さらに先入観や押し付けもどこかに置く。すると、そこには「間」が生じる。それと同時に、偏見や先入観も静まり、目の前にいる人がよく見える。目の前にいるこの人のために、④完全に「そこにいる」ことができるのである。このような、存在感のある、静かで、自由な「間」の中に、相手の話を聴き入れる。こんな聴き手がいてくれるだけでもきっと**eカンシャ**されるだろう。

（池見陽『心のメッセージを聴く』一部改めたところがある）

（一）波線部a～eのカタカナを漢字に改めなさい。

a　チシキ　　b　シュッパン　　c　ミゴト　　d　ケツエキ　　e　カンシャ

★★★★★

受検番号	

★

平成二十二　中入　国語　［後期］　（その七）　金蘭千里中学校

（二）１［　　］～３［　　］の本文中における意味としてもっとも適切なものをそれぞれ次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

１「しっくり」

ア　物事が進むさま　　イ　物事がよく合うさま

ウ　物事が明らかになるさま　　エ　物事が広まっていくさま

２「往々にして」

ア　残念であるさま　　イ　一般的であるさま　　ウ　目立っているさま　　エ　くり返し起こるさま

３「構え」

ア　姿勢　　イ　構造　　ウ　手段　　エ　表現

（三）傍線部①「その一つのタイプでは、相談の内容には、明確な解答が存在している」とあるが、次のア～オの例のうち、明確な解答が存在していると思われる相談を一つ選び、記号で答えなさい。

ア　万引きは犯罪か。

イ　いかに生きるべきか。

ウ　友達の作り方が分からない。

エ　日本語と英語のどちらがすばらしいか。

オ　高校に進学せず、夢を追いかけるべきか。

（四）傍線部②「それは援助ではなく迷惑そのものとなる」とあるが、なぜそう言えるのか。その説明としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　トイレの場所を知らないからと言って、意味不明な答え方をすることは、相手を混乱させるだけだから。

イ　相手は一刻も早くトイレに駆け込みたいのに、質問に質問で返されることで、余計な時間が過ぎてしまうから。

ウ　トイレを捜すことに対する実感を説明する明確な解答は存在せず、いたずらに相手を悩ませることになるから。

エ　相手はトイレの場所を知りたいだけであり、トイレを捜すという行為そのものに悩んでいるわけではないから。

オ　指示を求めているのに、何を捜しているのか確認を求められることで、次にすべき行動が分からなくなるから。

（五）文中の空欄［A］、［B］に入る言葉を、Aは五字、Bは三字で、本文からそれぞれ抜き出して答えなさい。

（六）傍線部③「南印禅師の講話」について。南印禅師は湯飲みにお茶を注ぎ続ける行動を通して、教授にどういうことを忠告したかったのか。「湯飲みいっぱいに注がれたお茶」と「湯飲みからあふれたお茶」がそれぞれ何を意味しているのかを明らかにして、五十字以内で説明しなさい。（句読点を含む）

（七）空欄［C］に入る語句として適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　緊張　　イ　協力　　ウ　逆転　　エ　進行　　オ　対立

（八）傍線部④「完全に「そこにいる」ことができる」とはどういうことか、その説明としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　目の前にいる人がよく見えるよう、ずっと側を離れないで、いつでも相談に乗れるようにしているということ。

イ　目の前にいる人のためなら、完全に日常から離れた「間」の中に自分を置いておくことができるということ。

ウ　偏見や先入観をなくすことで生じる「間」を、目の前にいる相手の話で完全に満たすことができるということ。

エ　現実世界にある偏見や心配事を、聴き手が全て解決した上で、話し手の目の前に立つことができるということ。

オ　個人的な心配事や先入観を取り去ることで、目の前にいる相手の話を十分よく聴く状態にできるということ。

（九）二重傍線部X「傾聴」とあるが、「傾聴」について説明した次の文の【ア】～【カ】に当てはまる語句を、本文から指定された字数で抜き出して答えなさい。

※「傾聴」は、特に【ア　八字】類の相談において必要な態度で、この種の相談においては、話し手の話にうまく【イ　五字】いき、話し手の【ウ　六字】を引き出し、徐々に話し手本人が【エ　十一字】に達するよう、相手の話に耳をかたむけることが、最も【オ　二字】的である。

相手をよく見、相手の話をよく聴くためには、【カ　五字】を作る必要がある。そしてこの中に相手の話を聴き入れることが、「傾聴」に必要な心理的な構えである。

受検番号	

★★★★★
★★

平成二十二　中入　国語　［後期］

（その八）　金蘭千里中学校

①

（一）a

（二）i

（四）1　記号

（二）ii

（二）iii

（四）異なる漢字

（三）c

（二）X

（四）2　記号

（二）Y

（四）異なる漢字

（五）

（六）

（七）

（八）と気づいたから。

（九）x　y　z

（十）（十一）（十二）・

②

（一）a

（二）1

（五）A

（二）2

（一）b

（五）B

（二）3

（一）c

（三）

（一）d

（四）

（一）e

（六）

（七）（八）

（九）ア　イ　ウ　エ　オ　カ

得点	
受検番号	

★★★★★★★

平成二十二　中入　国語　［後期］　（その九）　金蘭千里中学校

①　（６０点）

（一）ａ　路地（露地）　ｂ　小間物（細物）　ｃ　看板　ｄ　毛羽　ｅ　障子　①×５

（二）ｉ　カ　ii　ア　iii　エ　①×３

（三）Ｘ　エ　Ｙ　ア　①×２

（四）１　イ・鼻　２　ア・舌　②×２

（五）店の仕事が忙しい時期なので、知らせがあるまでは家族のことをあれこれ考えずに　いつも通り働くこと。⑥

（六）家族のことを心配している自分を豆腐屋への使いという名目で、実家のある清住町の近くへ行かせてくれたから。　⑧

（七）ウ　④

（八）家族が夜逃げしたことをおふくが知らない　④

（九）ｘ・あちこちに借金があった　ｙ・苦労をかけたくなかった　ｚ・夜逃げするしかなかった　②×３

（十）エ　④

（十一）うすらぐ。　④

（十二）イ・エ　⑤×２

②　（６０点）

（一）ａ　知識　ｂ　出版　ｃ　見事　ｄ　血液　ｅ　感謝　①×５　５点

（二）１イ　２エ　３ア　②×３　６点

（三）ア　４点

（四）エ　４点

（五）Ａその人自身（話し手自身）　Ｂアタマ　③×２　６点

（六）聴き手の頭の中が先入観や心配事でいっぱいであれば、話し手の語る重要な要素を聴けなくなるということ。　１０点

（七）ウ　３点

（八）オ　４点

（九）ア解答が明確でない（明確な解答はない・明確な解答がない）　イつきあって　ウ考えや可能性　エその人なりの最善の結論　オ援助　カ開かれた間　③×６　１８点